

令和8年度 京都教育大学教育学部一般選抜（前期日程）

小論文（教育学専攻）

【出題の意図】

問題1（配点50点：問1は20点、問2は30点）

問1 ここでの出題の意図は、『ガチャ』論が、不確実性を無くす方向で考えることは筋が悪い」理由について、課題文における筆者の主張を的確に読み取り、その内容を与えられた字数で適切に説明できる力を問うことであった。

問2 ここで出題の意図は、「すべてががちがちに決まっていたら、それはそれで息苦しいのではないだろうか」という筆者の主張について、課題文を正しく読み取り、筆者の主張に対する自分の考えを論じることを課し、その論述を通して、受験者の読解力、論理的思考力、表現力を問うことであった。

問題2（配点50点：問1は20点、問2は30点）

問1 ここでは、青年期に自己嫌悪感が高まる理由について、課題文における筆者の主張を的確に読み取り、その内容を与えられた字数で適切に説明できる力を問うことが出題の意図であった。

問2 ここでは、筆者の結論について課題文を正しく読み取り、筆者の結論に対する自分の意見を示した上で、青年期にあたる中高生が自己嫌悪という課題にどのように取り組むことができるかについて、自分の考えを論じることを課した。その論述を通して、受験者の読解力、論理的思考力、表現力を問うことが出題の意図であった。

令和 8 年度 京都教育大学教育学部一般選抜（前期日程）

実技検査（美術領域専攻）

【出題の意図】

鉛筆デッサン

設定されたテーマやモチーフをもとにして、鉛筆の特性を活かしつつ、モチーフを描写する力、基本的な形・質感・色・特性等を描き分ける力、空間を表現する力、的確な構図をつくる力、出題内容や条件等を理解する力など、基本的な造形力を総合的に表現できているか検査する。

プレゼンテーション

解答した作品の制作意図や制作プロセスについての説明、質疑応答をとおして、言葉で表現する力、コミュニケーション能力などを総合的に検査する。

配点 400 点（鉛筆デッサン+プレゼンテーション）

実技検査（美術領域専攻 書道分野）

【出題の意図】

問1は漢字仮名交じりの書の創作、問2～問5は漢字の書および仮名の書の古典臨書を出題した。問1では、漢字仮名交じりの書の特性について理解し、意図に基づいて工夫して表現する力を問うている。問2～問5は臨書であるため、各古典の特徴を理解し、それを的確に表現できるかが何より求められる。加えて、問4・5では条幅(半切)サイズの紙面における構成力も問われる。

いずれの設問も基本的な用筆・運筆や紙面の構成力、古典に基づく表現力を問うとともに、美術領域専攻(書道分野)に入学後、より専門性の高い授業に対応できる基礎的能力を有しているかを総合的に判断するものである。

問1（80点）

約 50 字の漢字仮名交じり文を半紙に収まりよく配置し、漢字と仮名の調和(書体・字形・大きさ・線質等)について理解した上で、自らの意図に基づいて表現できるかを問う問題である。

問2（80点）

「多宝塔碑」の特徴を理解し、古典の書体や書風に即した線質や造形を表現できるかを問う問題である。

問3（80点）

「一条摂政集」の特徴を理解し、古典の書体や書風に即した線質や造形を表現できるかを問う問題である。

問4（80点）

「喪乱帖」の特徴を捉えて表現できているかに加え、漢字の書における条幅作品の構成力を問う問題である。

問5（80点）

「高野切第三種」の特徴を捉えて表現できているかに加え、仮名の書における条幅作品の構成力を問う問題である。

実技検査（音楽領域専攻）

【出題の意図】

〈楽典〉（100点）

設問1（24点）

音程についての知識を問う。

設問2（24点）

西洋音楽の音階をもとに調号や関係調、ト音記号とヘ音記号、アルト記号の知識を問う。

高校までの教科書に記載された日本の音階と、日本の音名表記の知識を問う。

設問3（12点）

西洋音楽の音階をもとに、音階構成音と調を構成する和音、調名についての知識を問う。

設問4（18点）

一般的な楽語についての知識を問う。

設問5（22点）

三の和音と七の和音の種類とその転回形についての知識を問う。

〈視唱〉

正確な音程での歌唱能力やリズム感を問う。

〈器楽〉

器楽演奏の基礎的能力（読譜力・リズム感・音程・和声感など）及び音楽性を問う。

〈声楽〉

声楽の基礎的能力（読譜力・リズム感・音程など）及び音楽性を問う。

〈ピアノ〉

基礎的なピアノ演奏能力及び音楽性を問う。

令和8年度 京都教育大学教育学部一般選抜（前期日程）

小論文（体育領域専攻）

【出題の意図】

問い（配点100点）

体育領域専攻では、体育・スポーツに強い関心を持ち、それらについて多様な視点から考え、主体的に学び続けることのできる人物を求めている。

本問題では、「スポーツへの多様な関わり方」と「学校体育の授業」をテーマとし、体育・スポーツに関する基礎的な知識と理解を確認するとともに、それらを踏まえて学校体育の授業について考察する力を評価することを目的としている。

近年、生涯にわたるスポーツ参加の重要性が指摘されており、スポーツとの関わり方も「する」だけでなく、「観る」「支える」「知る」といった多様な形があることが示されている。本設問では、こうしたスポーツへの多様な関わり方についての理解を前提に、それらを学ぶことのできる学校体育の授業の在り方について考察することを求めている。

解答においては、体育・スポーツに関する基本的な知識や理解に加え、課題に対する論理的な思考力、自分の考えを文章として構成し適切に表現する力を総合的に評価する。